

# 敬老の日に「火の用心」の贈り物

## ～住宅防火・防災キャンペーン～

### 1 住宅火災による死者の多くは65歳以上の高齢者

住宅火災における死者(放火自殺者等を除く)は、建物火災による死者の約9割を占めており、この多くが65歳以上の高齢者となっています。高齢社会の進展とともに、ますます高齢者の住宅火災による死者の増加が懸念されています。(下図参照)

### 住宅火災における死者数の推移と高齢者が占める割合

(平成15年～平成24年の10年間)



### 2 高齢者を住宅火災から守るには

#### (1) 早く知る

住宅火災では、就寝中に火災に気付かずに逃げ遅れて死亡する事例が多く見られます。こうした「逃げ遅れ」を防止するための住宅用防災機器として、煙や熱を自動的に感知して知らせる住宅用火災警報器があります。火災に気付くことは、避難、通報初期消火といった行動が迅速にできることから、住宅用火災警報器の設置は、住宅火災による死者の低減に大きく寄与するものと考えられます。

なお、住宅用火災警報器は消防法ではすべての住宅に設置が義務付けられており、火災で発生する煙や熱を有効に感知できる位置に設置することが必要です。また、電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないように、定期的に作動確認をすることが大切です。

#### (2) 早く消す

火災による被害を最小限にするために、火災を初期段階で消火する消火器は、もっとも身近な消火器具であり、より扱いやすい住宅用消火器も売られています。また、女性や高齢者などでも軽くて持ち運びがしやすいエアゾール式簡易消火具もあります。

これらの消火器具は、いざというとき効果的に使用するため、日頃から地域の防災訓練などで実際に使用の訓練をしておくことが大切です。

その他、住宅用の消火機器としては、火災による熱を感知して自動的に消火する住宅用スプリンクラー設備、こんろ周りを自動で消火するこんろ用自動消火装置などがあります。これらの機器は、自動的に消火を行うことから訓練の必要もなく、高齢者のいる家庭では特に設置をお勧めします。

### (3) 火を拡大させない

住宅火災による死者のうち、「逃げ遅れ」の次に多いのが「着衣着火」であり、エプロンや衣類、布団カバーなどを燃えにくくすることで、こうした危険を減らすことができます。

現在では燃えにくい加工処理をした防災品や難燃繊維を用いて作られた製品などがあります。

また、火災が発生した際に、急激に火が拡大することを防止するために、防災性能をもったカーテンやじゅうたんなどを使用することが効果的です。さらに車のボディカバーなどに防災品を使用することは、放火火災の防止にもつながります。



## 3 9月は住宅防火・防災キャンペーン

9月16日は「敬老の日」。「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」として制定された国民の休日です。

総務省消防庁では昨今の住宅火災の傾向をふまえ、この「敬老の日」に住宅火災から高齢者を守るためにできることを考えていただく事を目的とした「住宅防火・防災キャンペーン」を展開します。みなさんのお宅でも「敬老の日」には、高齢者へ住宅用防災機器や防災品をプレゼントしたり、すでに設置されている住宅用防災機器の点検を手伝うなど、住宅の防火防災対策を兼ねた「敬老の日」にしてみたいかがでしょうか。



防災品

住宅用消火器

いざという時に備えて住宅用防災機器等(住宅用火災警報器・住宅用消火器・エアゾール式簡易消火具・防災品など)を身近に備えましょう。

# 敬老の日に「火の用心」の贈り物

住宅用火災警報器

すべての住宅に設置が必要な住宅用火災警報器。電池切れで万が一の時に作動しなかったということがないように、定期的に作動確認することが大切です。



北上地区消防組合  
予防課